



会長 古賀 健一郎
副会長 古田 和彦
書記 古賀 健一郎
会計 大高 治
直前会長 古田 和彦

国際会長 (IP) Kim Sang-chaе (Korea)

Y's Men with the World” 「世界とともにワイズメン」

アジア太平洋地域会長 (AP) 大野 勉 (神戸ポート)

“Make a difference beyond the 100th”

「100年を超えて変革しよう」

東日本区理事 (RD) 大久保 知宏 (宇都宮)

「私たちは次の世代のために何ができるか？」

“Think for the next generation”

湘南・沖縄部部长 (DG) 若木 一美 (横浜とつか)

「咲かそう 人の輪～明るく・楽しく・元気よく～」

横浜クラブ会長 (CP) 古賀 健一郎

「今こそ『すべての人を一つにしてください』(ヨハネ 17 章)を覚え、平和への行動を！」

“Now, keeping 『All be one with each other』 (John 17), Act for peace!”

監事 松島 美一
ブリテン 伊藤 誠彦
担当主事 青木 英幸

<今月の聖句>

古賀 健一郎

イエスは言われた。『心を尽くし、精神を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』

(マタイ福音書 22 章 37～39 節)

今月のひとこと

「私はあなたを背負って歩いていた」

秋元 美晴



私は 2021 年 4 月から横浜ワイズメンズクラブの会員にいただきました。その時に、古賀健一郎会長が「私が信仰に目覚めた時、出会った詩を添付いたします」として紹介して下さった「あしあと」という詩があります。クリスチャンの間では有名な詩だそうです。この詩は、次のように始まります。

砂の上には主と(私)の二人の足跡がずっと続いていました。しかし、人生で一番つらく悲しいとき、砂浜の足跡は(私)一人の足跡しかありませんでした。それで、主に「なぜ、人生のいちばんつらいとき、いちばん主を必要としたときに、主は

(私)を捨てたのか」と問います。そうすると主は「わたしは、あなたを愛している。あなたを決して捨てたりはしない。あしあとがひとつだったとき、わたしはあなたを背負って歩いていた」と答えます。

私は古賀会長に紹介していただくまで、まったくこの詩を知りませんでした。私はこの詩を読んで、砂の上の私の足跡はどうなっているのだろうかと考えました。そして、足跡は私一人の足跡だけで、これから人生の最後を迎える時まで、ずっとそうだと思いました。

しかし、ふと、私は本当にそうなのだろうか考えるようになりました。私は 2021 年 3 月に 70 歳を迎えました。70 年という長いとしつき、たった一人で歩いていたのだろうかと思うようになりました。いろいろなことがありました。自分ではどうしようもないこと、死にたいと思うほどつらいこともありました。そんなときも私は一人で歩いていたのでしょうか。一歩も先に進めず、うずくまってしまったときがあったのに、違いないのです。砂の上に倒れてしまったこともあったのに違いないのです。それなのに、砂の上の私の足跡は途切れることなく、ずっと続いています。そして、はたと思ったのです。

もしかしたら、私はずっと神さまに背負われていたのではないかと。

ですから、砂の上に足跡



<2022年1月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F
12名	メン 8名 メネット 0名 コメット 0名 ビジター 2名 ゲスト 0名 合計 10名	75 % (メーキャップ 1名を含む) 前月修正 出席率 %	今月分 切手 0g 現金 0円 年度累計 切手 0g 現金 0円

<2月の行事予定>

TOF

日	曜	時間	行事内容	場所
11	金	10:00	横浜 Y ピースフォーラム 兼横浜クラブ第一例会	Zoom
24	木	17:00	横浜クラブ第二例会	Zoom

はずっと続いているのです。私の足跡だと思っている足跡は私の足跡ではなく、神さまの足跡に違いありません。慈愛に満ちた神さまに背負われたまま、私は70年を生きて来たのではないかと思うのです。なんという怠惰な人間でしょう。私はこの世に生まれてからずっと神さまに背負われて、人生を歩いてきたのです。ですから、いろいろな苦難や試練にあっても、今までこうして生きてこられました。神さまが私のためになさってくださったことを思うとき、神さまの慈しみの深さに思い巡らすとき、なんと感謝してよいのかわかりません。私は70歳になって、はじめてそれに気が付きました。

そろそろ、神さまの背中から降りて、一人で砂の上を一步一步歩いて行かなければなりません。私はこれから一人で歩いて行けるのでしょうか。いままで神さまに背負われていた私が一人で歩いて行けるとは思いません。しかし、神様と一緒にだったら歩いて行けるような気がします。それで、私は神さまに従おうと決心しました。洗礼を授けていただき、クリスチャンになろうと思いました。

そのためにはキリスト教をきちんと理解しなければならないと思います、いろいろな人に伺い、キリスト教についてずいぶん教えていただき、自分でもたくさんの本を読み、勉強をいたしました。しかし、いつまでたってもキリスト教がわかりませんでした。そんな時に、偶然、恵泉女学園大学の元の事務長の島田治夫さんにお会いしたので、相談いたしましたところ、「キリスト教は理解してから信ずるものではありません。それでは哲学か倫理になってしまいます。洗礼を受けてから、教会員になってから学ぶのが正解だと思います。キリスト教信仰は人間を超えて与えられるものですから、キリストの体なる教会に連なって、学ぶものです」というメールをいただきました。このメールは私の背中を強く押ししてくれました。

こうして、私は2021年12月19日に用賀教会の敬愛する白正煥牧師に洗礼を授けていただきました。古賀会長、素晴らしい詩をご紹介くださり、ありがとうございました。

「第一例会報告」

伊藤 誠彦

日時：1月13日(木) 18:30~19:40

開催方法：Zoom 例会

出席者：青木、秋元、伊藤、大高、古賀、齋藤、佐竹、古田
ビジター：阿部正伴(卓話者、厚木)、辻剛(横浜つづき)

例会は古田ワイズの司会により定刻に開始。古賀会長による挨拶に続いて、ワイズソング、ワイズの信条を唱和、ビジター紹介の後、聖句朗読と解説があった。

今例会の目玉は、厚木クラブの阿部正伴湘南・沖縄部担当主事による「横浜 YMCA と湘南・沖縄部(各ワイズメンズクラブ)の連携強化」と題する卓話。これは、「横浜 YMCA と横浜ワイズメンズクラブのさらなる連携強化の模索 第一弾」として昨年11月、青木担当主事により実施された卓話に続く第二弾の位置づけだ(ブリテン2021年12月号参照)。

卓話は周到に用意されたプレゼンテーション・キットに沿って展開された。

最初に、チャリティラン、各 YMCA で開催されるバザー、スピーチコンテストなど YMCA とワイズによる協働プログラムの確認があり、その協働の仕方には大別して、①活動費や運営資金の支援、②労働奉仕によりともに汗を流す、があることが確認された。

しかし、他に YMCA が必要とする支援がある。それは、地域のニーズと YMCA をつなげる、YMCA 活動に必要な人材の紹介であると言う。

横浜 YMCA は神奈川県下に多くの活動拠点をもち、現在では6つのエリアグループに分けられている。各拠点には YMCA 職員が適宜配属され、活動しているが、地域との密着度という観点では、その地域に生活の拠点を置いているワイズのほうが強い場合が多い。

そこで、地域のニーズと YMCA をつなげるため、YMCA 活動に必要な人材を地域から紹介する役割がワイズに期待されるという訳である。

卓話の最後には、「維持会員登録のお願い」というタイトルが示され、2021年度のワイズ会員の横浜 YMCA 維持会員登録率は82%であることが示され、100%の目標に向かって努力が必要であることが再認識された。因みに、横浜クラブでは正会員は横浜 YMCA の維持会員になることを会則により義務付けている。

卓話の後はビジネス。2月、3月の例会予定として、2月例会は毎年会員大会の日に、総会の合間に開催されていたが、今年は、会員大会が「横浜 YMCA ピースフォーラム」として開

1月例会出席者



催されるため、ピースフォーラムがワイズ例会を兼ねることが確認された。3月例会は昨年1月の第一弾、今回の第二弾に続いて「横浜YMCAと横浜ワイズメンズクラブのさらなる連携強化の模索 第三弾」を計画していることが確認された。

「近況:願いは波動となって」

大高 治



もう50年以上も前のことです。「大きな事件の第一報は小さい」という言伝えがアメリカのジャーナリストの間にあると教えられました。当時の大事件は1963年TexasでのKennedy大統領の暗殺でした。「Texasで煙が上がった」がその第一報です。各報道機関の腕

利きの記者は、即Texasに飛んだのです。お互いに同僚を信頼すれば、「煙が上がった」だけで、詳しいことを確かめるまでもなく、「あの記者の一報、重大な何か起こったに違いない」と次の行動に移したのです。

ジャーナリズム専攻の米人の先輩はこの言伝えから「信頼と洞察力の大切さ」を教えてくれたに違いありません。果たして私はどれだけそれに応えて来たであろうか。何とこの12月「大きなプロジェクトに繋がる可能性のある小さな第一報」を発することになりました。

また30年位前には「信念の魔術」という本に出会いました。「何かしたい。何かになりたい」と強い願望を持ち続けると信念となって、見えざる手に導かれて実現するというのです。

「強く信じて想いを実現した」Businessmenの例の他、大小のポジティブな成功例が挙げられています。評判の良い弁護士さんは手紙を出す相手が目の前にいるかのように立ち上がって、原稿のディクテーションをしていました。

長いこと不仲になっていた友の居た著者は「こういう状態から早く脱して仲直りしたい」と願っていました。少々遅れて会合に行くと空いている席はその友の前だけだったのです。そして友の想いも同じでした。願いや想いを継続すると潜在意識になって人を動かす波動になるのはサイエンスだということです。

私も現役の時、この「願いの方式」を使いました。特に国際電話をする時は、お客様の国の方向を向いて立ち、目の前に相手が居ると思って話をしました。また難しい交渉では、お客様と我が方の真ん中に立って、この解決が双方にとって如何に大事かという想いを述べたことを思い出します。今回「小さな第一報」の後、双方に同じような願いがあることが分かりました。

私は町内のシニアクラブ(老人会)の立上げから10年以上世話役をしてきましたが、5年前30名に達して以降、増員は遅々として進みません。一方、区全体では、会長の引き受け手がなく、休会クラブが続いています。そうした休会クラブからの入会者が増え、昨年40名を超えました。同好会でグラウンド・ゴルフなどを楽しむには、どこかのクラブに入らなければなりません。これでもシニアクラブ全体の会員減を幾分なり食い止めますが、根本的な解決にはなりません。70歳前の若手の入会が必要なのです。

シニアクラブの主たる行事は「お楽しみ」です。ジム、絵画

教室やコーラスなど、少々お金を出せば「お楽しみ」は巷に幾つでもあり、個人で自由に楽しみ、こうしたことにお金を出せる層が増えています。

年度末に提出する次年度の活動計画では、「会員の増加と会長の後任探し」を続けて課題としなければなりません。上部機構への要望では「お楽しみ行事に加え、次世代支援を念頭に世のため人のためとなる行事探しが必要」と2年続けて来ました。

人生百年時代の第一世代の我々は、「世のため人のため」という雰囲気がある中で成長して来ました。しかし、シニアクラブの行事には社会参加の機会は少ないのです。こうした中で、江崎禎英著の「社会は変えられるー世界が憧れる日本へ」という本から「次世代支援」というヒントを掴みました。だが、今年度末も具体策のないまま、同じ想いを提案するところでした。

ところが大きな展開がありました。高齢者が「自分のためにも、次世代のためにもなる口腔の測定」に参加出来そうです。長く続けて、「次世代支援」をシニアクラブの魅力に組み入れたいものです。日本を代表する大学/大学院の歯科の先生方の「高齢者の健康維持・増進に貢献」しようとする研究課題に産業界が協力し、高齢者も加わるのです。

歯科医師の先生との偶然の出会いから、シニアクラブの事務局を経て組織の意思決定プロセスに進んでいます。先生方も高齢者との接触を求めているのでした。また先生方と事務局との交信は実に小気味よく、信頼と洞察力のそれを見せて頂きました。オミクロン株の合間を縫って「産学協力」を越え「産学高協力」に進めたら素晴らしいことです。

ワイズメンズクラブも会員増加を願っています。多くの会員の想いは同じです。更に繰返して行けば、潜在意識を高め波動となって行くに違いありません

「近況報告」

青木 英幸



いつも皆さまにご支援いただいている横浜YMCA学院専門学校の留学生の近況報告をいたします。1月27日(木)に一般社団法人神奈川県専修学校各種学校協会横浜支部主催による「第33回外国人留学生による日本語スピーチコンテスト」が神奈川県内にある専門学校に所属する留学生15名が集い、神奈川県立青少年センターホールで開催されました。当日はYouTubeによるライブ配信も行われ、在校生は学校の教室でスピーチコンテストを視聴しました。

本校日本語学科からは2名の学生がエントリーし、ピエトモリン ソレン セシリアさん(フランス)は、「あなたも私も外国人」をテーマに日本に来て隠れた差別や偏見があることを知りモヤモヤした気持ちに





ピエト モリン ソレン セシリアさん

なったことや、場所が変わればみんな外国人ですと丁寧にスピーチを行い、神奈川県専修学校各種学校協会

子どもたちの今と権利について学ぶ機会を持ちます。下記サイトよりお申し込みをお願いいたします。

https://www.yokohamaymca.org/event/2021_peace_forum/ 「ピンクシャツデー」は、2007年にカナダで始まりました。ピンクのシャツを着て登校し、いじめられた少年のために先輩2人がピンクのシャツを着て登校しようと呼びかけ、賛同した多くの生徒がピンクのシャツや小物を身に着け登校し、いじめが自然となくなったそうです。その出来事があった2月の最終水曜日を「ピンクシャツデー」とし、いじめられている人と連帯する思いを表す日としています。

長賞に選ばれました。

また、チン ハイキさん (台湾) は、「母からの調味料」をテーマに日本で食べた台湾料理に満足出来なかったのはお母さんの味であり、お母さんから教えてもらった料理を自分で作ることにより、コロナ禍で帰国出来ず会えないでいるお母さんとの絆が深くなったことを伝え、努力賞をいただきました。

まん延防止等重点措置適用期間においてスピーチコンテストを無事に実施し、日頃の学びの成果を発表できたことに感謝いたします。

横浜YMCAでは1年間を通して毎月最終水曜日は「ピンクシャツデー」と位置づけ取り組んで参りました。2月23日(水・休) 午前10時から11時30分に横浜YMCAピンクシャツデートークイベント「ピンクシャツデーってなあに? ~いじめのない社会をめざして~」をオンライン (Zoom) にて開催いたします。

お申し込みはこちらとなります。https://bit.ly/3rng1mb 是非、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

第二例会報告

伊藤 誠彦

日時 : 1月27日(木) 17:00~18:00 (Zoom 例会)

出席者 : 青木、伊藤、大高、古賀、古田

- 1. 行事予定の確認
2. 協議・確認事項

2月例会の確認、2月例会は例年、横浜YMCA 会員大会の日にプログラムの合間を縫って開催されていたが、今年には会員大会が「横浜YMCA ピースフォーラム」として開催されるため、ピースフォーラムは第一例会を兼ねることとする。

3月例会は「横浜Yと横浜クラブのさらなる連携 第三弾」として卓話を計画。その詳細は後日協議する。

次年度役員について、横浜クラブ会則は次年度クラブ役員を2月第一例会で選出するとしている。これは3月には東日本区が次期会長・部役員研修会を例年3月初旬に開催するので、それまでには次期会長を決定しておく必要があるからである。

例会席上、古賀会長から意中の次期会長候補に対して就任要請があったが、当例会では結論に至らず、2月の例会に持ち越すことになった。

2月例会プログラム
日時: 2月11日(木) 10:00~12:20
場所: Zoom 開催
「横浜YMCA ピースフォーラム」(第一例会を兼ねる)
10:00 オープニング
開会あいさつ 工藤誠一 横浜Y理事長
10:15 特別講演
~世界の子どもたちは、いま~
神奈川県ユニセフ協会
事務局長 関山万理子 氏
11:20 分かち合いの時
11:45 横浜YMCA 活動紹介
ボランティア・指導者からのメッセージ
12:05 YMCA 維持会員のご案内
12:15 閉会あいさつ 佐竹 博 横浜Y総主事
Happy Birthday 大高 治
例会報告: 齋藤 宙也



担当主事 青木 英幸

2月11日(金・祝) 午前10時から12時20分にオンライン (Zoom) にて横浜YMCA 会員事業委員会主催による「ピースフォーラムxSDGs16 平和と公正をすべての人に」を開催いたします。例年、会員大会として実施しておりましたが、今年にはYMCAの会員でない方にも参加し易いように「ピースフォーラム」として開催いたします。特別講演会には、神奈川県ユニセフ協会関山万理子事務局長を招いて「世界の子どもたちは、いま ~子どもの「いま」とその「権利」を守ることで持続可能な世界の礎になる~」をテーマに、

3月の行事

Table with 5 columns: 日, 曜, 時間, 行事内容, 場所. Rows include 1st, 10th, and 24th of the month.

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA 青木英幸にご連絡下さい。
メール aoki_hideyuki@yokohamaymca.org
電話 045-661-0080